

次期学習指導要領に向けた検討事項と、今、大切にしたい取組

まとめにかえて

今年の「校長の窓」では、4月から8月まで計9回(本稿も含む)にわたり、「次期学習指導要領の改訂の方向性」について取り上げてきました。文部科学省の審議を視聴したり、膨大な資料を読み込んだりしながら、少しでも分かりやすくお伝えできればと考え、情報発信を続けてまいりました。

これまでの「校長の窓」が、次期改訂の方向性について考える一つのきっかけとなっていれば幸いです。

さて、令和8年8月20日には、県教委主催の「特別支援教育 教育課程等説明会」が行われ、文部科学省初等中等教育局視学官の菅野 和彦先生による基調講演で、「次期学習指導要領の改訂の方向性」について、より具体的な説明がありました。

これまでの「校長の窓」では十分にお伝えできていなかった、いくつかの具体的な方向性についても示されました。

例えば、「高次の資質・能力」については、直接の評価対象とするのではなく、教師が単元を構想し、「深い学び」の実現に向けた学習過程や評価課題をデザインする際に活用することが示されました。

また、「学びに向かう力、人間性等」の評価については、教育課程全体を通じた個人内評価に加え、各教科等における「思考・判断・表現」の過程において、「学びに向かう力」の三つの要素である「他者との対話や協働、初発の思考や行動を起こす力・好奇心、学びの主体的な調整」の継続的な発揮が見取れた場合に、「思考・判断・表現」の観点別評価に「○」を付記する方法が示されました。

こうした説明を聞くと、次期学習指導要領の改訂は、単に「新しいことを始める」ためのものではなく、子どもの学びの過程を丁寧に捉え、その学びをより豊かにするために、教師の授業づくりや評価の在り方を見直していくことが大きな柱になっていることが、改めて感じられます。

今後の予定として、現時点では、幼稚園・小学部・中学部については、令和8年度末の3月に告示、その後、令和9年度の7月から9月頃に解説が公表される予定とのことでした。高等部については、令和9年度の1月から3月に告示、令和10年度の7月から9月頃に解説が公表される予定です。

これまで「校長の窓」を通して、次期学習指導要領の方向性について考えてきた中で、私自身、改めて大切にしたいと感じていることがあります。それは、告示や解説を待つことなく、今の授業を見つめ直すことです。「深い学び」とは、子どもたちにとってどのような学びなのか。そして、単元計画や一人一人の学びの過程をどのように捉え、次の指導につなげていくのか。また、教科と自立活動との関連をどのように図っていけば効果的な指導につながるのか。こうしたことを、日々の実践の中で考えていくことが大切なのではないのでしょうか。

こうしたことを、特別な取組として新たに始めるのではなく、今の実践の中で、少しずつ考えていく。

それが、次期学習指導要領に向けた何よりの準備になるのではないかと考えています。

虹の原では、今年度から「単元シート」の作成・運用を通したカリキュラム研究に取り組んでいます。これも、次期学習指導要領を見据えた特別な準備というより、これまで私たちが大切にしてきた授業づくりを、子どもの「学び」という視点から改めて見つめ直す取組の一つです。また、自立活動の実態把握チェックリストの改訂は、生活上の困難だけではなく、教科における学習上の困難も自立活動の視点から捉え直していく取組の一つです。

これまでの「校長の窓」でお伝えしてきたことが、先生方の日々の授業を振り返るきっかけとなり、そして、目の前の子どもたちの学びをより豊かにするための小さな一歩につながれば嬉しく思います。

「変わるのを待つ」のではなく、「今の実践を見つめ直す」。

次期改訂に向けて、今、私たちが大切にしたいのは、そんな一歩なのだと思います。

なお、今年4月から続けてきた「次期学習指導要領の改訂の方向性」についての発信は、ひとまず今号を一区切りとしたいと思います。

次号からは、これまでと同様に、虹の原の子どもたちの学びや、先生方の日々の実践、そして本校が大切にしている教育について、改めて発信していきたいと思っています。

引き続き、「校長の窓」をお読みいただければ幸いです。

参考／引用文献

- 長崎県教育委員会「令和8年度特別支援教育教育課程等説明会 基調講演 次期学習指導要領の改訂の方向性」文部科学省初等中等教育局 視学官 菅野 和彦氏(令和8年8月)



「やってみよう」、「もう一度やってみよう」、「最後までやってみよう」
この言葉を大切に、魅力ある虹の原の教育を育んでいきます。

— R8年度 学校経営方針の実現に向けて —